

薬学生であれば、医薬品メーカーなどに属して医師への医薬情報提供を担っているMR（医薬情報担当者）という職種は知っていると思うが、MRの日本における歴史は、99年前の1912年まで遡ることはご存じだろうか。つまり、来年にはMR誕生100周年を迎えることになる。この長い歴史と変遷を振り返ると共に、MRの存在意義、使命と役割、決意と自覚の再考や、医師、患者に対するMRの貢献について広く周知するための各種イベントが今年から順次開催されるので、注目してほしい。

MRは認定試験に合格することから始まる。その教育・認定を行っているのが、今年4月に公益財団法人へ移行したMR認定センター（旧・医薬情報担当者教育センター）である。年度末まで長年MR教育・認定制度に携わってきた前常務理事の平林敏彦氏は、「MRは知的営業職であり、営業職ということをお忘れはならない」と本質を強調する。営業職でありながら医薬品情報を担うためには、薬学をきちんと勉強してきた人が最も適しているのは当然のことだが、この点について、大学側が適切に伝えていないところも

あり、就職の際にMRは単なる営業職だと思われてしまいがちだった。

もちろんMRに固執することはなく、病院薬剤部やドラッグストアでの薬剤師業務という選択肢があり、むしろこちらの方が圧倒的に多いだろう。平林氏は、「薬剤師として活躍するのならば、MRはとても大切でよいチャンスである。自社製品に限定されるかもしれないが、薬を勉強して具体的に知るチャンスはMRにしかない。生きた薬の情報は

より高度な専門MRも用意されているので、6年間薬学を学んできたことはプラスになるだろう。

「一番の問題は、大学の教官がMRをよく知らないことだ。少なくとも就職担当教官は正しく理解してほしい。そうでないと、学生にMRに対する誤った情報が伝えられてしまうので、正しい知識を発信できる大学になっていただきたい。MR認定センターがいろいろお手伝いできることもある」と指摘する。

今や薬剤師に必須となったコミュニケーション能力だが、MRは営業職であるので、さらに一段高いレベルが求められる。「薬剤師は薬の知識を生かせ

るコミュニケーションスキルが必要であり、これを向上させるような教育が必要になる」としたほか、「企業の人事に聞くと、営業であるMRには“ガッツ”が不可欠だという。MRを目指す薬学生には、ガッツが求められている」とアドバイスした。

平林氏は、「MRは薬剤師に向いている職業だ」と主張する。将来設計における選択肢の1つにMRを加えてみてはいかがか。

100年の歴史ある“知的営業職”

MRという職能選択について

メーカーが一番知っているのだから」と言う。つまり、MRを経験してから調剤業務などに従事しても遅くはないということだ。仕事を限定せず、MRも1つの選択肢として捉え、いろいろな仕事を行き来するのも大切だと説く。ちなみに、以前、薬学部卒のMRは全体の25%だったが、現在では13%程度でしかない。製薬企業でも、MRだけでなく学術系やプロダクトマネージャーもあり、企業によっては

4年制最後の国試結果を公表

4年制最後となる「第96回薬剤師国家試験」の合格者が3月末、厚生労働省から発表された。受験者数3274人（前回6720人）に対し、合格者数は1455人（3787人）で、合格率は昨年に比べ約12ポイント減の44.4%（56.3%）だった。今回の国試は、薬学教育が4年から6年に延びたことに伴う“空白の2年間”最後の年に当たり、国試不合格者や留年生、大学院生などが対象となったため、前年に比べ受験者・合格者数ともに大きく減り、合格率も下がった。

なお、来年3月からは、6年制課程を修了した学生が受験する新国試がスタートする。新国試では、問題数が現

行240問から345問に増えることなどを考慮し、厚労省では例年7～8月ごろに開いていた「薬剤師試験委員会」の開催を前倒しし、準備に取りかかっている。

受験者や合格率も低下

国試は3月5、6の両日、東京、大阪、愛知など全国8カ所で実施された。出願者は3606人だったが、332人が受験せず、受験者数は3274人であった。合格者数は男性が受験者1954人に対し、合格者が817人で合格率は41.8%、女性が受験者1320人に対し638人で、48.3%だった。前回と比べ、いずれも合格率は下がった。

受験者を「新卒」「その他」に区分して合格率を見ると、「新卒」受験者数155人のうち、合格者は52人（合格率33.5%、前回：39.6%）。既卒者など「その他」は、3119人に対し1403人（44.9%、

60.4%）で、「その他」の合格率が新卒を上回っている。

大学の設置主体別では、私立が受験者2784人で合格者は1275人（45.8%、58.1%）だった。国立は371人に対し143人（38.5%、41.2%）、公立が86人に対し30人で34.8%、45.7%と受験者数、合格率ともに下がっている。

学校別の比較では、合格率が60%を超えた大学は14校だった。私立新設校での合格率が高く、奥羽大（合格率70.1%）、摂南大（69.4%）、青森大（67.7%）、武蔵野大（66.6%）、金城学院大（66.6%）などとなっている。国立では広島大（52.9%）、北海道大（48.1%）、長崎大（47.6%）、東北大（47.3%）などで合格率が高かった。

一方、合格率が低かったのは、静岡県立大（23.5%）、金沢大（25.0%）、日本大（25.9%）など。



首都圏での店舗展開
東京都：17店舗 神奈川県：5店舗
埼玉県・千葉県・山梨県・栃木県：各1店舗

私たちと一緒に、未来を描いてみませんか！



人と人のコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹（ミキ）から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。

<http://www.mikiblog.com/tabeshinbun/> <http://www.miki.ne.jp>

株式会社 メディカルファーマシー 本社：〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011
人材開発部 saiyou@miki.ne.jp 設立/昭和54年2月 資本金/5,000万円 売上高/114億円 従業員数/250名(薬剤師167名)